

がんと漢方薬

がんの治療を受けている方はどうしても抗がん剤による副作用に悩まされます。漢方薬を使うことによって、少しでも困っている症状が緩和され、改善すればありがたいです。

● 悪心・嘔吐

(69)茯苓飲(ぶくりょういん)

食べようとしても気持ちが悪くなる、吐いてしまう。こういう時には茯苓飲です。1回1包、1日3回、2週間は飲んでみましょう。西洋薬との併用はかまいません。



● 口腔粘膜炎

(14)半夏瀉心湯(はんげしゃしんとう)

抗がん剤による口の中の口内炎ができます。口内炎ができると水分さえ摂れなくなります。半夏瀉心湯を1回1包、1日4-5回、1週間は続けてみましょう。口腔粘膜の激しい炎症のために口内炎が多数できて、漢方薬を飲むことさえ困難になります。こういう時は半夏瀉心湯を1包ずつ口の中に含んでうがいします。うがいをしながら口腔粘膜になじませます。その後べーっ吐き出せばよいです。これを続けると、2週間以内に口内炎・口腔粘膜の炎症が鎮静化できます。



● 下痢

(14)半夏瀉心湯(はんげしゃしんとう)

抗がん剤(イリノテカン)による下痢は、止痢剤でなかなか止まりません。口内炎に使う半夏瀉心湯は、下痢にも有効です。腸管内の激しい炎症に対応します。半夏瀉心湯を内服することによって下痢を予防して、治療の期間延長などを起こさないようにします。



● 末梢神経障害

(18)桂枝加朮附湯(けいしかじゆつぶとう)

(107)牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)

今日の多くの抗がん剤は神経毒性を有しています。化学療法の進歩に伴い、発現頻度は増加傾向にあります。桂枝加朮附湯は、主に上半身の神経痛、神経炎、関節痛・関節炎に使います。湿気、冷えによって症状が悪化するケースに有効です。牛車腎気丸は、主に下半身の神経炎に有効です。ブシ末を追加することで、下肢のしびれに有効となります。



● 食欲不振

(43)六君子湯(りっくんしとう)

(41)補中益気湯(ほちゅうえつきとう)

六君子湯は、食物を胃底部でしっかりと貯留させてから粥状にこなして幽門部へ運びます。グレリンという食欲亢進作用を持つペプチドホルモンの分泌を亢進させます。補中益気湯は、消化管機能をもとに戻すことによって、一時的に落ちた免疫機能を持ち上げます。それぞれ1回1包、1日3回、1週間は試してみよう。



● 免疫機能の低下

(48)十全大補湯(じゅうぜんたいほうとう)

(108)人參養榮湯(にんじんようえいとう)

十全大補湯は、がん治療でへろへろ、ヨレヨレになっている状態に使えます。免疫機構の低下、易感染症、食欲低下があれば、1日1包、1日3回、1ヶ月は試します。次第に免疫力が上がり、感染しにくくなって、食欲が増えてきます。人參養榮湯は、十全大補湯と適応が似ていますが、さらに造血作用、精神安定作用があります。さらに肺に特異性があり、肺がん、肺がんの転移に用います。自分に合うとわかれば、1ヶ月単位で飲み続けると良いでしょう。



細菌性腸炎

O-157がまた最近話題になっています。

よほど汚い手が食物を触ったり、汚染された食器、包丁などを使わない限り、普通は感染しません。

生(なま)で食べる食材には注意が必要です。

また、十分火が通っていない(加熱不十分)と思った食材は口にしない方が賢明です。

O-157は腸管出血性大腸菌というグループの大腸菌です。

普通便にいる大腸菌とモノが違います。

O-157による細菌性腸炎を起こすと激しい腹痛、下痢、血便が起こり、夜も眠れなくなります。

溶結性尿毒症症候群(HUS)を合併すると透析までしなくてはならない状況になります。くれぐれも食材、食器の清潔を保つのはもちろん、手洗いを十分にしてください。



お知らせ

小児夜間急病センター当番日 9月15日(金)

19:30-22:30(受付) 場所:岐阜市民病院にて

岐阜市の漢方外来予定日 9月2日(土)、16日(土)

14:00-17:30 場所:中島小児科(岐阜市鍵屋東町2-1)
※すべて「院外処方」となります。

休診日のお知らせ 9月13日(水)

都合により休診します。よろしくお願ひします。